

どんな相場でも絶対リターンが鉄則。ヘッジファンドを個人が買う時代!

商品・金融先物市場をターゲットに、驚異的なリターンを上げるヘッジファンドの「マネージド・フューチャーズ」とは、どんな手法なのか?

累積リターンは実に760%超!

最近、にわかにCTAという言葉を耳にするようになった。やはり、商品市場の高騰を受けてのことだろう。正式には「コモディティ・トレーディング・アドバイザー」といい、日本語に訳せば「商品投資顧問業者」。商品・金融先物取引を専門分野とする運用会社である。

株式や債券、為替から商品まで、ヘッジファンドの投資対象は非常に幅広く、投資手法も実に多彩である。そして、ヘッジファンドの中にはCTAが運用しているものも存在する。当然、その投資対象は商品・金融先物市場だ。

CTAの運用手法は「マネージド・フューチャーズ」と呼ばれ、驚異的なリターンを上げることが知られている。たとえば、1995年にオーストラリアのウィーンで設立されたスーパーファンドが、96

年から運用している個人投資家向けマネージド・フューチャーズ・ファンド「スーパーファンドQ・A・G」(新規販売期間終了)の累積リターンは761%で、平均でも年19.09%の高水準に達する(2008年7月1日時点)

こうしたパフォーマンスから、これまでにS&Pやウォールストリート・ジャーナルなどから数々の賞を受けている。日本では、このファンドと同じ手法で運用する「スーパーファンド・ジャパン」が購入可能だ。この商品のプロモーションを手がけるスーパーファンド証券の土屋泰統さんはこう語る。

「当ファンドは独自開発の完全自動化トレーディングシステムによって、世界中の商品・金融先物市場に1対1の割合を原則に運用を行なっています。戦略A(想定変動性Ⅱ年率20%、30%)、戦略B(想定変動性Ⅱ年率30%、40%)、戦略C(想定変動性Ⅱ年率40%

ヘッジファンドに投資する際のメリットと注意点

メリット

- 絶対リターンが原則で、逆境下でも利益を期待!**
どのような環境であろうと、プラスの収益を狙うのが基本。下げ相場であろうと関係ない。
- 一般的な投資では得難いハイリターンも!?**
リスク回避で安定的な収益を目指すのが本来の姿だが、超ハイリターンを達成するものも!
- 株や債券など、主要な投資対象との相関性が低い。**
商品市場など、株式や債券などと相関性の低い投資対象で運用し、共倒れの結果になりにくい。

注意点

- ヘッジファンドごとに運用成績には格差がある。**
すべてのヘッジファンドが驚異的なリターンを上げているわけではなく、優秀なものは一握り。
- その時々で有効な手法が異なることがある。**
相場環境の変化とともに、最も大きな成果を上げる手法は異なってくる。過信は禁物。
- 個人投資家が得られる情報量があまりに乏しい。**
個人投資家が得られるヘッジファンドの情報はかなり限定的。うさんくさい話には注意。

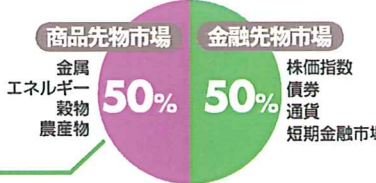
(50%)という3つのコースがありますが、戦略Cに人気があります。このファンドはケイマン籍のオープンエンド契約型外国投信(円建て、米ドル建て)。最低申込金額は、戦略Aが10万円、戦略Bが100万円、戦略Cが1000万円。「ほかの投信と同様に販売手数料がかかり、成績がよかった場合は成功報酬も発生します。高めの設定ですが、いいものは相応の値段になるものです。当ファンドの運用成績は、これらの手数料を差し引いた後の数字です(土屋さん)」。独自のシステムの優秀さもあることながら、「マネージド・フューチャーズ」という戦略そのものの優位性がこのファンドの成績を支えていることも確かだろう。まず、長期的に株式や債券市場より高いリターンを記録しているうえ、それらとの相関性も低い。また、相場の上昇・下落のいずれの局面でも収益を狙える。ほかのヘッジファンドの手法と比べて投資対象が広範囲なもの、収益機会が拡大につながっているという。個人投資家にとって、投資の選択肢は広がることは歓迎だ。

ファンドのパフォーマンスは760%超のリターン!



教えてくれたのは... スーパーファンド証券代表取締役社長 土屋泰統さん。世界銀行、国際証券執行役員、三菱東京ウェルスマネジメント証券代表取締役副社長などを経て、今年5月より現職。国際金融のプロ。

- マネージド・フューチャーズ以外の代表的なヘッジファンド手法**
 - ファンド・オブ・ファンズ**
自らは直接運用せず、手法の異なる複数のヘッジファンドに投資。
 - アービトラージ**
本来、同価値であるべき2つの投資対象の価格差の取れんを期待。
 - ロングショート**
割安なものを買って割高なものを空売りし、着実に利益を出す手法。
 - マーケットニュートラル**
買いと売りを同額にし、市場全体の動きが及ぼす影響を回避する。
 - グローバル・マクロ**
その時点で世界的なお金の流れが向かっている市場に集中投資する。
- マネージド・フューチャーズへの投資メリット**
 - 絶対的リターンを上げることが可能。**
資源や農作物などの商品先物市場から金融先物市場まで、非常に幅広い分散投資が実現。
 - 他の投資対象・手法と相関性が低い。**
株式や債券などで不振でも、それらと相関性の低いこの手法なら、収益機会が広がる。
 - 分散投資の効果が期待できる。**
下落局面でも収益機会があり、市場の方向性を問わず、コンスタントに収益を追求できる。
- トレーディングシステムの特長**
 - 分散投資**
世界の100以上の先物市場が投資対象。金融先物と商品先物でバランスよく運用。
 - テクニカルトレーディング**
人の感情が及ぼす不適切な投資判断の排除し、テクニカル分析でシステムティックに投資。
 - トレンドフォロー戦略**
相場の流れに逆らわず、トレンドが続く限り、徹底的にそれに追従して収益を伸ばしていく。
 - リスク管理**
ポジションを組む際に初期リスクの上限を総資産の最大2%に制限し、徹底して損失抑制。



- 市場トレンドが発生する原因**
- 欲望や恐怖などの人間の感情
 - 資源の不足と生産の過剰
 - 景気動向、政治的事件、天災など
 - メディアなどが表す相場見通し

続々と商品拡充中 個人で買えるヘッジファンドの例

ファンド名 運用会社名	基準価額(1口) 純資産総額	購入単位	販売手数料	信託報酬	成功報酬	販売会社
SBI-絶対収益追求ファンド SBIアセット	8144円	10口	2.1%	1.05%	—	SBI証券
	10億2500万円					
GLGベガサス・ファンド GLGパートナーズLP	9281円	100口	4.20%	3.0% (運用報酬)	20%	キャピタル・パートナーズ証券
	5億7796万円					
スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド スパークス・アセット	1万4945円	1万口	2.10%	1.995%	—	ジョインベスト証券
	29億8200万円					
スパークス・アジア・パシフィック・ヘッジ ファンド・オープン スパークス・アセット	9640円	3000万口	3.15%	4.29%	10%	みずほ証券、直販
	17億2400万円					
ランドマーク マン・インベストメンツ	1万9844円	50口	3.15%	3.0% (運用報酬)	20%	三菱UFJ証券
マイルストーン マン・インベストメンツ	243.338米ドル	50口	3.15%	3.0% (運用報酬)	20%	三菱UFJ証券
イーバンク・ヘッジファンドe501 イーバンク・キャピタル	9771円	10万円	2.10%	3% (運用報酬)	20%	イーバンク銀行
	39億0900万円					
イーバンク・ヘッジファンドe503 イーバンク・キャピタル	9991円	10万円	2.10%	3% (運用報酬)	20%	イーバンク銀行
	45億2500万円					
スーパーファンド・ジャパン 戦略A-第1 クアドリガ・ジャパン・トレーディング	105.580円	1000口	5.25%	4.2% (管理報酬)	25%	キャピタル・パートナーズ証券
	2億369万円					
スーパーファンド・ジャパン 戦略B-第1 クアドリガ・ジャパン・トレーディング	119.110円	1万口	5.25%	4.2% (管理報酬)	30%	キャピタル・パートナーズ証券
	15億0265万円					

*データは7月7日現在。ファンドによっては上記の手数料のほかに、販売報酬や事務管理報酬などがかかる場合がある。GLGベガサス・ファンド、ランドマーク、マイルストーン、スーパーファンド・ジャパンは外国投信。スーパーファンド・ジャパンは申し込みを終了しているが、同様のシリーズを2カ月ごとに募集するので、詳細は販売会社に問い合わせを。